

# 治水

発行 全国治水期成同盟会連合会

東京都千代田区麹町4丁目8番26号 ロイクラトン麹町  
電話 03(3222)6663 FAX 03(3222)6664  
ホームページ <http://zensuiren.org/>  
お問い合わせ [zensuiren@k2.dion.ne.jp](mailto:zensuiren@k2.dion.ne.jp)  
編集・発行 椿本和幸



国土交通省東北地方整備局 成瀬ダム本体工事着工式 平成30年9月15日

## ● 目次

国土交通省水管理・国土保全局 治水課長 就任挨拶	2
大井川『平成の大改修(牛尾地区河道拡幅事業)』完成式	4
成瀬ダム本体工事着工式	8

# 水管理・国土保全局 治水課長 就任挨拶



国土交通省水管理・  
国土保全局 治水課長  
井上 智夫

7月31日付で水管理・国土保全局治水課長を拝命しました井上智夫です。

全国の関係者の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

今年は、災害への対応が強く求められる年となっています。まず、大阪北部地震、平成30年7月豪雨、台風21号、そして、北海道胆振東部地震、これらの自然災害によりお亡くなりになられました方々のご冥福をお祈りしますとともに、被災された方々に謹んでお見舞いを申し上げます。

平成30年7月豪雨では、前線と台風7号の影響で6月28日から7月8日までの総降水量が四国地方で1,800mmを超えるなど、7月の月降水量平年値の4倍となる大雨となったところがありました。48時間降水量は全国で123箇所、72時間降水量は119箇所を観測史上1位を更新しました。11の府県で大雨特別警報が発表されるなど、西日本全体に長時間に亘る降雨により、広域的かつ同時多発的に河川の氾濫、がけ崩れ等が発生し、これにより岡山県・広島県・愛媛県など西日本を中心に死者・行方不明者220名を超える極めて甚大な被害が広範囲で発生しました。

このような甚大な被害が発生したところではありますが、治水施設の整備が進んでいる箇所では確実に被害軽減効果が発現されていることにも着目すべきです。淀川水系桂川の京都市嵐山地区では、平成25年台風18号による出水で旅館等の施設の浸水被害が発生しましたが、その後の河川改修の集中整備と上流の日吉ダム洪水調節により、平成30年7月豪雨では浸水被害を大幅に軽減することができました。

一方、岡山県倉敷市真備町の高梁川水系小田川では、合流地点の本格的な付け替え工事に着手する直前の豪雨により堤防が決壊するなど、整備が未了のままの箇所で大規模な浸水被害が発生しました。被害が発生する前に治水対策を実施すること、すなわち、「事前防災」の重要性を改めて認識させられたところです。

また、治水施設の整備により災害頻度が減少し、それに伴って被災経験も減少したことで防災意識の低下を招いているとも言えます。浸水想定区域が公表されているにもかかわらず、災害リスクのある土地に居住する住民に対する避難情報が早期に発令されても避難行動に結びつかない事例が多発しております。

近年、地球温暖化に伴う気候変動の影響が顕在化しつつあり、今後さらに水害の頻発化・激甚化が懸念されております。時間100mmを超える降雨が頻発する傾向にあり、長時間に亘る継続的な降雨もたびたび発生しております。気候変動により、河川整備の目標としている降雨量が約1.1～1.3倍に増加し、洪水の発生確率が約2倍から4倍に増加することが予測されております。

しかしながら、治水関係予算は公共事業予算の削減に伴って減少を続け、ピーク時(H9年度)の約6割の水準に留まっております。この少なくなった予算の中で維持管理や再度災害防止に優先的に配分する必要があることから、事前防災に関する治水関係予算(新規治水投資)が相対的に急減しております。その結果、施設整備が追い付かず、被害が発生してしまう事態となっております。

現状の対症療法的な対応（被害が発生してからの事後的な復旧）では、一般被害が大きくなるだけでなく、災害復旧費用を含めたトータルで見ると、結果的に社会的な負担・損失が大きくなってしまいます。「事前防災」へシフトすることによって、被害を大きく抑制することが可能となり、その結果、「災害復旧」や「再度災害防止」にかかる費用が減少するだけでなく、一般の被害や被災者支援や生活再建にかかる費用も含めたトータルの社会的負担を抑制することが可能となります。

例えば、平成27年台風18号及び台風から変わった低気圧の影響による大雨で発生した鬼怒川水害では、被災以降再度災害防止にかけている約530億円を、もし事前に投資し事業が完成していたならば、約3,300億円以上の一般被害や約140億円の被災者・被災地支援にかかる費用が軽減できたと推定されています。

これからは、「事前防災」の強化が必要であるという基本的な考え方を定着させる必要があります。2015年に国連で策定された「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成に向けた国際的な議論の中では「事後対応から予防防災・強靱化への転換」「水防災投資を2倍に」といった内容が提言されています。各国の治水関連予算は着実に増加する傾向にある一方で、我が国の治水関連予算がこの15～20年で約6割に減少されていることを憂慮せざるをえません。

現在、平成31年度予算要求の真っ最中ですが、これらの「事前防災」の強化を念頭に事前防災予算の確保に向けた取組を着実に進展していきたいと考えております。

国民の生命・財産を守ることは、国の最も重要な使命です。国民一人一人が安全・安心に暮らしていくことができるようにするためには、国、地方公共団体等関係機関がしっかり連携して、防災・減災対策の取組を全力で進めて行くことが必要であるとの考えの下で、皆様方の引き続きのご支援とご協力を心からお願い申し上げます。

# 大井川『平成の大改修(牛尾地区河道拡幅事業)』完成式

国土交通省中部地方整備局静岡河川事務所

## 1. はじめに

大井川『平成の大改修(牛尾地区河道拡幅事業)』は、静岡県島田市牛尾地区において、洪水を安全に流すために、牛尾山を掘削して河道断面を拡幅する事業です。平成9年度から事業に着手し、平成30年度に事業が完成したことから、平成30年8月25日(土)に「完成式」挙行了ましたので、ここに報告いたします。



<図-1>位置図

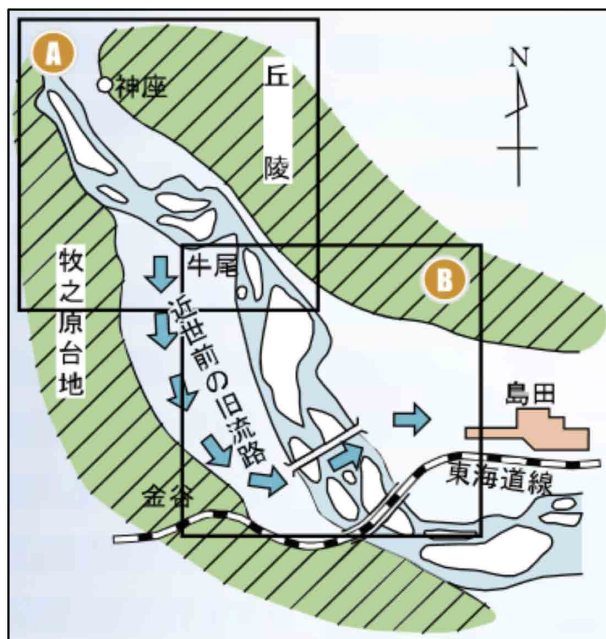
## 2. 事業の必要性

### 1) 天正の瀬替え

大井川は古くから暴れ川として知られており、多くの水害に見舞われてきました。戦国時代末期の天正18年(1590年)に行われた「天正の瀬替え」は詳細が明らかとなっている最も古い治水事業です。これはこの地域を支配した駿河国駿府藩主の中村一氏と遠江国掛川藩主の山内一豊が協力して行ったと伝えられています。

現在の流路は、両脇を微高地に囲まれており、地形的には河道として利用しやすい条件にありました。しかし、牛尾山が流路を塞ぐように大きく張り出していました。そこでまず中村一氏が牛尾山の張り出す部分を144間(約300m)開削して新しい流路としました。その後山内一豊は、旧流路を80間(約150m)の堤防で塞いで新しい流路への通水を行いました。

なお、旧流路を塞ぐために作られた堤防は「一豊堤」と呼ばれ、現在でも残っています。



<図-2>天正の瀬替え



牛尾山地点より上下流の川幅が約600mに対して約300mと狭くなっており、川幅を拡げるため「牛尾地区河道拡幅事業」を実施しました。

「牛尾地区河道拡幅事業」は、平成9年度に用地調査を開始し、その後、用地取得及び中部電力の鉄塔3基の物件の補償、埋蔵文化財発掘調査(第二海軍技術廠牛尾実験所跡遺跡発掘調査)、そして下流側に延長950mの築堤・護岸工事をを行い、牛尾山の開削工事を開始し、全ての事業が平成30年度に完成しました。



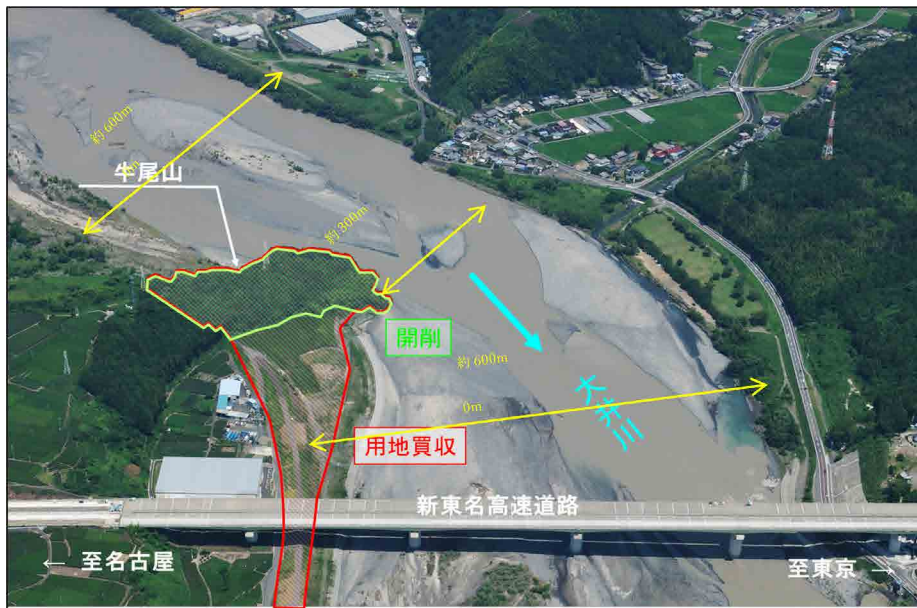
<写真-1>完成写真

2) 平成の大改修<事業の概要>

「天正の瀬替え」(改修)から約400年の星霜を経て、「平成」である現代において実施される、牛尾山を再び開削して大井川の流路を拡げるという歴史的な工事であることから、大井川における「平成の大改修」と表現しました。

「天正の瀬替え」により開削した新しい河道では、

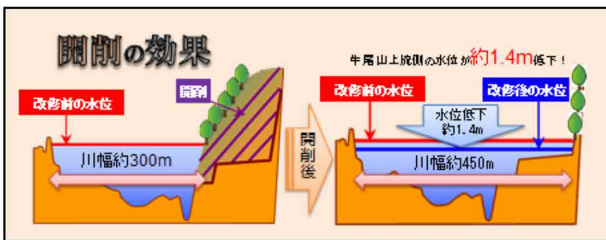
事業期間は、平成9年度から平成30年度の21年間、全体事業費は、約78億円を費やし、牛尾山の掘削では、6年間で約22万㎡の土砂の開削を行いました。これにより、大井川の川幅が約300mから450mに広がり、洪水時の牛尾山の上流側の水位を約1.4m低下させることができました。



<図-3>事業の概要

また、掘削した土砂は対岸の神座地区の高水敷造成約8万m<sup>3</sup>の他、焼津市の「防災ひろば」、吉田町の「津波避難地・命山」の造成等に有効活用を行いました。

なお、島田市教育委員会は、平成25年・26年の2ヶ年で、記録保存を目的とした発掘調査報告書を作成、当地域の現代史を考えるうえにおいても重要な事例として、静岡県教育委員会と協議し、埋蔵文化財包蔵地すなわち「第二海軍技術廠島田実験所跡遺跡」として登録しました。



<図-4>事業の効果

### 3. 完成式

大井川『平成の大改修』として、平成24年12月19日(水)に着工式を実施してから約6年、地域の念願であった牛尾山の開削が完成したことから、平成30年8月25日(土)に完成式を実施しました。

内容は、平成30年7月豪雨による西日本を中心に全国的に広域かつ甚大な災害が発生したことから、祝い事関係のイベントを自粛し、簡素な式典としました。

会場は開削した牛尾山があった場所において、牧野国土交通副大臣、国会議員、島田市長をはじめとした沿川首長、県・市町会議員、地元自治会の方々、行政・工事関係者など約100名がご出席のもと執り行いました。

牧野国土交通副大臣(当時、以下同じ)の挨拶、大井川改修促進期成同盟会会長(島田市長)の挨拶に続き、国会議員、牛尾自治会長の皆様からご祝辞をいただきました。

牧野国土交通副大臣からは、「静岡県会議員の時に国に繰り返し足を運び、要望活動を行うなど事業採択のために尽力し、それから20年の時が経ち、完成式を迎えることができるのは、貴重な土地をご提供頂きました地権者の皆様をはじめ、関係自治体、ご臨席の皆様のご支援・ご協力の賜」と挨拶されました。



<写真-2> 式典の状況

また、地元首長からは「私達大井川流域住民にとって長年の悲願でありました「大井川平成の大改修」が遂に完成しました。今回の改修は、大井川右岸に突き出た牛尾山狭窄部の開削により河道断面を拡幅したもので、治水上の安全度が格段に改善されました。気候変動の影響により自然災害が激甚化する傾向にある中、市民の皆様が安心して生活できる環境の整備に向け、引き続き全力で取り組んでまいります。」と挨拶されました。

その後、静岡河川事務所長より事業報告が行われ、開削した牛尾山の切土斜面を背景にて記念撮影を行いました。



<写真-3> 式典会場の状況



<写真-4> 記念撮影

---

## 4. 終わりに

---

事業着工から、約20年、完成を無事に迎えることができました。これまで本事業にご尽力、ご協力いただきました関係各位に感謝の意を表するとともに、地域の皆様のご理解とご協力をいただきながら、さらなる治水安全度の向上を目指して引き続き、大井川の河川改修を進めていきたいと考えています。

# 成瀬ダム本体工事着工式

国土交通省 東北地方整備局 成瀬ダム工事事務所

国土交通省が秋田県雄勝郡東成瀬村地内の雄物川水系成瀬川に建設を進めている「成瀬ダム」において、平成30年9月15日(土)にダム本体建設工事の着工式を執り行いました。

式典には、地権者の皆様をはじめ、国会議員、秋田県知事、横手市長、大仙市長、湯沢市長(代理)、東成瀬村長、関係議員の皆様、土地改良区、事業関係者等約300名にご臨席いただきました。

式辞において、国土交通省 水管理・国土保全局 井上智夫治水課長は「成瀬ダム建設により、当地域の安全の確保に大きな役割を果たすのはもちろんのこと、成瀬ダムを地域資源の一つとらえた観光振興についても、大いに期待を集めているところであり、地域が主体となった取り組みに対し、支援してまいります。」と述べました。続いて佐竹敬久秋田県知事、御法川信英衆議院議員、中泉松司参議院議員、足立敏之参議院議員、高橋大横手市長、佐々木哲男東成瀬村長から挨拶が述べられました。

そして、村山英俊成瀬ダム工事事務所長による事業説明、地元の方を代表して東成瀬小・中学生からの「期待の言葉」、「鍬入れ式」の後、「工事着工号令」によりダム建設本体工事に着工となりました。



成瀬ダム位置

成瀬ダムは、洪水調節、流水の正常な機能の維持、平鹿平野地区約10,050haの農地に対するかんがい用水の補給、湯沢市、横手市、大仙市への水道用水の供給、発電を目的とした多目的ダムで、堤高114.5m、堤頂長755m、堤体積485万 $m^3$ 、総貯水容量7,850万 $m^3$ の台形CSGダムです。台形CSGダムとしては、国内最大の大きさとなります。

ダム本体建設工事は、今年の5月に、鹿島・前田・竹中土木特定建設工事共同企業体と堤体を構築する堤体打設工事、大成・佐藤・岩田地崎特定建設工事共同企業体と堤体に使用する材料を採取する原石山採取工事を契約締結し、ダム本体建設工事に着手するための準備工事を行ってきました。

成瀬ダム建設事業につきましては、ダム本体建設工事はもちろんのこと、付替道路の整備についても、より一層の促進に努めるとともに、安全第一で工事を着実に進めていきたいと考えています。

今後とも、地域の皆様をはじめ流域の関係機関のご理解とご協力のもと、2024年度の完成に向けて着実に事業を進めて参ります。



成瀬ダム完成イメージ





成瀬仙人太鼓（オープニングセレモニー）



式典会場ゲート  
(漫画家高橋よしひろ先生から協力頂いたパネル)



井上治水課長（挨拶）



佐竹秋田県知事（挨拶）



地元の方を代表して、東成瀬小・中学生から「期待の言葉」



「鍬入れ式」



「工事着工号令」を受け、ダム本体工事に着手



施工状況 上流側から望む（平成30年5月22日撮影）